

9) 猫の神社

梅宮大社では猫が境内や神苑を自由に歩き回り、「猫神社」と呼ばれています。

梅宮大社では20年ほど前に保護した、野良猫が多くの子猫を出産。現在は14匹の猫が悠々と暮らしています。

猫は犬と並んで安産に縁の深い動物なので、梅宮大社ご利益と相性が合うでしょう。



特に多くの猫が集まるのが社務所。

みんな隙があれば、社務所内に入ろうとしていて、受付窓口周辺は猫の人気スポットとなっています。

また社務所前の賽銭箱も猫に人気のお昼寝の場所のようです。賽銭箱の上で猫がくつろぐ風景はまさに猫神社です。

人間と猫は昔からずっと、切っても切れない関係です。

今はペットとしてですが昔は養蚕も盛んでした。

蚕や食物をかじるネズミ退治のために猫と暮らしてきました。

『お蚕様』と言われ蚕を神様として崇め、そのお蚕様を守る猫も神様として崇めていたようです。

いろんな動物の恩返しも聞きますが、『猫の恩返し』もあります。

自由で奔放な印象の猫ですが、飼い主が大好きで飼い主のために頑張った猫もたくさんいたようです。

逸話も合わせて、全国各地にたくさんある『猫神社』『猫寺』があると聞きます。

10) 橋本経亮邸址

梅宮大社の石の鳥居を入れて右側に石の碑があります。

橋本経亮(1755~1805)は、梅宮社の社家に生まれ、梅宮社の正禰宜(ねぎ)や、宮中の非蔵人をつとめた国学者。高橋凶南のもとで有職故実を、上田秋成らについて和歌を学び、『梅窓自語』など多くの著作を残した。この石標は、橋本経亮の邸宅跡地を示すものである。



橘 紋

橘は現在ある蜜柑の原種で、実は小さく、香気が強く、奈良時代は街路などにも植えられていたらしい。木は積雪に耐え、よく育つことから、人徳あり奥ゆかしい人を「橘のようだ」となぞらえたといえます。

